

町政を問う!!

9 議員が質問・提案を

漁業振興

これからの漁業大丈夫か
様々な支援策で対応



おかもと てつや 議員

問 漁業を取り巻く環境は年々厳しい状況になっている。漁獲量の減少、魚価の低迷など、カツオ一本釣り漁はアニサキス問題などでダブルパンチを負った状態である。この厳しい状況の中、漁業後継者の取り組み状況はどうか。

そして魚のブランド化をもう一段レベルアップする取り組みはないか。

答 今西海洋森林課長 後継者の取り組みは現在4名が研修中で、順調に育っている。佐賀地区においては、本年4月から新しく組織化された県漁業就業支援センターにおいて1名の方が研修中である。雇用型の短期漁業研修生は定置網漁業

で就業している。研修が終了し自立まで住居の問題や、様々な生活支援の相談にのっている。カツオ一本釣りの研修生についてはもう一度当町の船に乗ってもらえるよう受け入れ体制を強力に推進していく。

ブランド化のレベルアップはまず、衛生管理型市場の取り組みが必要と考える。県内外の衛生管理型市場を視察し、入野または他の漁港にできるか検討していきたい。



ブランドのレベルアップ

問 魚種・漁法から見えてくる問題点を町はどう分析し、検討していくか。

答 今西海洋森林課長

アカムツについては、高値で取引されているが資源の動向について不透明であり漁獲状況に注視する必要がある。モジャコに関しても資源確保と中間養殖における病気の発生など対策を県に求めており、引き続き働きかけを行っていく。定置網漁業も資源管理型漁業へ

シフトする取り組みを模索する必要がある。ソデイカ漁も今年度から操業ベースに乗り、新たな漁業者からの申請を受け付け、この事業の周知、利用促進を図っていく。

放流事業もアマダイについては5年程度、放流しながら資源調査を実施していく。ナマコについてもモニタリング調査を行いながら、収益を得られるよう漁業者と協力関係を築きながら対応していく。



ソデイカの水揚げ